

## 令和7年度 真住中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年 4月17日	学校	93	46	37	9.8	17.9
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	443
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

### 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年 9月2日	学校	94	58.3	48.7	49.1	41.7	46.3	6.7	7.0	12.7	13.0	8.0
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 真住中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

＜国語＞

正答率は全国・大阪府・大阪市平均のいずれに対しても下回っているが、前年度より対全国比が0.02P向上している。

無回答率が前年度より1.5P増加した。

出題内容ごとでの前年度との対全国比においては「言語の特徴」が11.5P、「話す・聞く」で0.4P、「読む」で1.2P改善されている。

＜数学＞

正答率は全国・大阪府・大阪市平均のいずれに対しても下回っており、前年度より対全国比が6.8P低下している。

「図形」の領域においては対全国差が-10.0から-7.0となり、若干の向上がみられた。

＜理科＞

平均IRTスコアにおいて全国・大阪府・大阪市平均のいずれに対しても下回った。初めてのCBTシステムによる出題であったため、慣れていない形式による実施であり戸惑いもあったと考える。

【今後に向けて】

正答率、無回答率のいずれにおいても改善の必要があり、生徒の学力向上に向けた授業改善を行う。また、家庭学習も含めて学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ意欲を育成する。

○3年生チャレンジテスト

【成果と課題】

いずれの教科においても正答率は府平均を下回った。

＜国語＞設問別集計結果において「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる」については3問中2問で大阪府の正答率を上回った。

＜社会＞評価の観点別「思考・判断・表現」において大阪府平均点を1P上回った。

＜数学＞学習指導要領の内容別平均点の「図形」が弱い。設問別集計結果では33問中6問で大阪府の正答率を上回った。

＜理科＞学習指導要領の内容別平均点の「生命」が大阪府と比較して弱い。また、同一母集団における無回答率の昨年度との比較では、他教科に比べてやや上昇した割合が高かった。

＜英語＞学習指導要領の内容別平均点の「書くこと」が大阪府と比較して弱い。評価の観点別平均点において「知識・技能」はほぼ同等となった。

【今後に向けて】

正答率、無回答率のいずれにおいても前年度より改善している。正答率は全教科の同一母集団における対府比が2年時より0.01P向上した。教科にみると、数学・理科が0.04P、英語が0.03P向上している。国語は同等、社会科で0.04P低下した。

さらなる生徒の学力向上に向けて各教科で授業改善を行うとともに、家庭学習も含めて学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ意欲を育成する。